

2025 年度 自己点検・評価報告書

文学部評価分科会

2026 年 2 月

基準4 教育課程・学習成果

1. 学修に関するもの

学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。また、学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

【1】今年度の自己点検・評価の方針・改善計画

① 学修成果の測定方法

文学部では、学生が卒業までに身につけるべき資質・能力の到達度を、次のように測定していく計画である。まず、各科目のシラバスの「到達目標」においてB以上の成績の条件を明示し、客観的な尺度に基づく測定を進めていく。また4年間の集大成である卒業論文では、成績評価に関するルーブリックを作成しており、今年度もこれを用いて、複数教員による論文の審査と口頭試問を実施していく計画である。さらに、1・2年次の必修科目では、毎回の授業の「振り返り」を書かせることで、授業内容の何を、どのように理解したのかを詳細に把握することを目指す。

② 効果的な教育を行うための工夫（シラバス、授業形態、履修計画の指導等）

(1) 「文学部の学びとライフデザイン」（2年次必修科目）の小規模化とサポート体制に関する計画

2年生の必修科目「文学部の学びとライフデザイン」において、昨年度まで1クラス300名の一斉授業で行っていたものを、4クラス（1クラス70～80名）に分割して行うこととした。これにより教員の目が行き届く環境を構築するとともに、各クラスに3名のスチューデント・アシスタント（SA）を配置し、講義中のワークや技術的フォローをきめ細かく行う計画である。

(2) 2026年度カリキュラムの特徴と履修上の注意事項について、学部教員の研究会（学部FD）を実施する。この研究会を通じて各教員の授業改善を促し、26年度入学向けに適切な履修アドバイスを行う体制を整える。

【2】今年度の自己点検・評価結果

① 学修成果の測定結果

各科目のシラバスの「到達目標」においてB以上の成績の条件を明示することで、客観的で公平な評価を行うことができている。2025年度春学期の成績では、GPAの平均が3.021（最大値4）、標準偏差が0.748であり、評価が甘すぎることなく、成績のばらつきも適正の範囲内である。1・2年次の必修科目において毎回の授業の「振り返り」を書かせ、それを評価の対象に加えることで、授業に取り組む姿勢や言語表現能力をより細やかに評価に反映できるようになり、授業外学習時間も増えた。具体的には、春学期の「文学部の学びとライフデザイン」（2年次選択必須科目）では、授業外学習時間が1時間以上の学生は8割以上、2時間以上の学生も約3割に達した（授業アンケート結果より）。

今後は、カリキュラムの変更により卒業研究時の口頭試問が必須でなくなるため、教員一人一人が今まで以上に客観的評価を心掛ける必要がある。教授会等でそのことを確認するとともに、よりよい成績評価をする方法を学ぶためのFDの開催なども検討していきたい。

② 効果的な教育を行うための工夫（シラバス、授業形態、履修計画の指導等）

（１）「文学部の学びとライフデザイン」（２年次必修科目）の小規模化とサポート体制の充実により、すでに①で述べたように同科目では授業外学習１時間以上の学生が８割、２時間以上の学生が３割に達した。またラーニングアウトカムズの伸長・向上実感についても、伸長・向上を実感した学生約が95%に達した（授業アンケート結果より）。

（２）2026年度カリキュラムについての研究会を通じて、各教員の担当科目のシラバスの質の向上などにつなげることができた。アカデミックアドバイザーを中心に各教員が26年度入学向けに適切な履修アドバイスを行う体制を整えた。

2. 教育課程に関するもの

教育課程の編成・実施方針に基づき、学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

【1】 今年度の自己点検・評価の方針・改善計画

- ナンバリング、ディプロマ・ポリシーと開講科目・成績の照らし合わせ
現行カリキュラム（2023年度カリキュラム）では、メジャー（専門分野）によってナンバリングの方針にばらつきが見られ、また1年次から履修できる科目の中に100番代と200番代が入り混じる、2年次から履修できる科目の中に400番代の科目が存在するなどの問題点がある。そこで、2026年度の新カリキュラムに向けて改善を進めていく。またディプロマ・ポリシーについても、大学全体のディプロマポリシー（4項目）を踏まえて、これまでの7項目を4項目に整理する予定で、それに合わせた開講科目の設置を進めていく。

【2】 今年度の自己点検・評価結果

- ナンバリング、ディプロマ・ポリシーと開講科目・成績の照らし合わせ
2026年度カリキュラムでは、1年次から履修できる科目は100番代、2年次から履修できる科目は200・300番代、3年次以降から履修できる科目は300・400番代といったように、各学年で学ぶべき学習内容とナンバリングの数値を整理し、学生が段階を踏んで学んでいけるように工夫した。またディプロマ・ポリシーを4項目とし、それに合わせて旧来からの科目、また新設科目の再配置を行った。

2026年度カリキュラムの運用は今後とのことなので、実際に運用を進めていくなかで問題点を見出し、さらなる改善に結び付けていきたい。

3. 就学状況

【1】2025年度の自己点検・評価の方針・改善計画

○学籍異動の状況（卒業、休学、退学の状況など）

留年の末、最終的に卒業に至らないケースが全学平均よりも多い。文学部生に合理的配慮の申請者数が多いことにみられるようにメンタルヘルス上の理由で学習が困難となる学生が多いからであると思われる。こうした学生の特性への対処については大学関連部局とも連携しながら検討していく。

【2】今年度の自己点検・評価結果

○学籍異動の状況（卒業、休学、退学の状況など）

本年度の文学部の学籍異動（退学）の状況は以下の通り前年度から微増している。「その他」は複合的な退学理由を「一身上の都合」によると示すものであるが、大学での就学に適応できずに学習意欲を喪失するケースも含まれている。学業アドバイスだけでは状況改善が難しい学生へのサポートの在り方について、引き続き大学関係部局と連携して検討していく。

	未納退学	退学	進路変更	成績不振	経済事情	病気	その他
2024	12	14	4	3	3	3	1
2025	15	17	0	5	2	4	6

休学者は昨年度より減少しており、「病気療養」や「一身上の都合」による休学申請も減少した。1年次の基礎科目である「初年次セミナー」及び「人間学」を通して、アドバイザー教員との面談の機会を確保することで学生の変化を早めに掌握できるようになった効果があるのではないかと考えられる。

	休学	留学	就活	病気	経済事情	その他
2024	131	9	21	35	25	42
2025	92	16	13	25	17	21

4. 改善計画

【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画

<短期計画（アセスメント実施後1～2年の期間で実現可能な改善策）>

2012年度におけるメジャー制の導入後、本学部ではかつて6つの専門領域（英語英文学、社会学、日本語日本文学、人文学、中国語、ロシア語）の科目が入り混じった形で8～11メジャーが作られ、これに社会福祉分野も加わり、学生にとって分かりにくいカリキュラムとなっていた。2026年度カリキュラムではこれを5コース1専修制に整理し、ナンバリング、履修年次を整理することで、学生にとって分かりやすく、かつ段階的な学びができるようにした。まずはこの2026年度カリキュラムに基づく教育を実施していきたい。

<中長期計画（アセスメント実施後3～5年の期間で取り組む改善計画）>

2026年度カリキュラムに基づく教育活動におけるコース（専修を含む）別のラーニング・アウトカムズを詳細に把握することにより、本カリキュラムの教育効果を分析し、機能不全に陥っている項目などを中心に修正項目を検討し、その改善に当たっていくものとする。

基準5 学生の受け入れ

1. 学生の受け入れのための広報活動全般について、適切に実施しているか。

- ・オープンキャンパスにおける取組み
- ・授業体験や姉妹校との連携事業などの実施状況

【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

- 新カリキュラムをアピールするようなオープンキャンパスの改善
- 姉妹校との積極的な連携と体験授業の充実
- 学部ホームページの一層の更新

【2】今年度の取組みに関する点検・評価結果

- 2026年度から文学部で新カリキュラム（5コース1専修）が始まるため、オープンキャンパスでは学生募集に注力した。そのために、5コース1専修を紹介するマンガ動画を製作、パンフレットを作成し、オープンキャンパスで動画の再生、パンフレットの配布を行い、積極的に活用した。またパネルを刷新し、文学部での新カリキュラムを分かりやすく紹介し、その特長が理解できるようにした。
- 学生のボランティアな運営組織である「エンカレッジ・リーダーズ」に、2026年度から始まる新カリキュラムの内容とポイントを説明し、オープンキャンパスに来場した参加者への説明・質問への対応ができるようにした。教職員と学生とが一体として、受験生獲得に向けて、オープンキャンパスを盛り上げた。

- オープンキャンパスで受験生が興味・関心をもてそうなトピックを体験的に学べるように、ワークショップを4回開催した。また、例年行っている体験授業もより受験生が興味を引くような内容に見直した。
- 「創価中学校2年生創価大学研修」「関西創価中学校3年生創価大学研修」での体験授業、創価高等学校2年生を対象にした創価大学での模擬授業、関西創価高等学校2年生の創価大学研修での体験授業（内容が異なる授業）の2回、以上に取り組んだ。
- 文学部の広報委員を中心に文学部ホームページを点検し、情報の更新、内容が分かりやすいレイアウトを意識したものに刷新した。
- 文学部の各コース・専修や教員、ゼミ等で開催したイベント等を文学部のNewsとして文学部ホームページに随時掲載し、積極的に情報を発信している。

【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画

<短期計画（アセスメント実施後1～2年の期間で実現可能な改善策）>

- 2026年度は全学的な教学体制の改編初年度となるため、新入生の授業への満足度や要望などを適宜調査しながらコース制の運営・改善を行う。そして、新カリキュラムの学びの特性（長所）を明らかにしていく。
- アドミッションセンターとも連携し、新カリキュラムの特性を中心に、文学部での学びの良さをSNSなどでも積極的に発信していく。

<中長期計画（アセスメント実施後3～5年の期間で取り組む改善計画）>

- 学生の満足度や要望についての調査を継続するとともに、文学部の学びが自身のキャリアパス形成に有効であることが自覚できるような学生指導の体制を整えていく。コース制修了学生が自ら満足するキャリアパスを示すことで、学部での学びの魅力として発信していく。

2. 合格者に対する入学前教育等を適切に実施しているか。また入学後の学生に必要な支援（リメディアル教育・初年次教育等）を実施しているか。

【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

- 入学前教育としてアカデミック・スキルの基礎を学んでもらうような取り組みを行う。
- 「初年次セミナー」における担当教員とSA学生の連携を強化し、教員・学生双方から新入生をサポートする体制を整えていく。
- 履修登録の考え方や方法に関する動画を作成し、それを視聴したのちに履修相談会に来てもらうようにする。

- 「文学部なんでも相談室」で、文学部生が学習上の悩みや困りごとを今以上に相談しやすくなるよう、学部全体で学生のアクセシビリティ向上をはかる。

【2】今年度の取組みに関する点検・評価結果

- 学部の入学前プログラムでは、SAがファシリテーターとなって、学生間のコミュニケーションを促進するなど、入学前準備としては効果あるものどできた。時間的な制約もあり、アカデミック・スキルについての学びという点ではこれから工夫をしていきたい。
- 「初年次セミナー」におけるSAの学生の役割分担の明確化をすすめることができた。教員・学生による新入生サポートをさらに充実していきたい。
- 履修登録の考え方や方法に関する動画を作成し、履修指導の時間短縮や効率化を進めることができた。
- 「初年次セミナー」の中で、希望するメジャー、クラブ、留学予定、進路等の情報を共有してもらい大学生活に対する適切な助言を行うことで、その後の大学生活の設計を具体化させていく時間を設ける。
- 「文学部なんでも相談室」を訪れる学生も減少し、「相談室」はその役割を果たしたといえる。今後は、「相談室」は終了し、学生自治会および学生団体とも連携して、学生の「相談先」・「居場所」を提供していきたい。

【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画結果

<短期計画（アセスメント実施後1～2年の期間で実現可能な改善策）>

- 入学前プログラムは入学試験別に複数実施するので、それぞれの特徴に合わせた内容で実施する。「大学での学びの意味」、「文学部での学びの特性」、「大学での学び方」といったガイダンスに併せて、アカデミック・スキルに関する学習を取り入れる。

<中長期計画（アセスメント実施後3～5年の期間で取り組む改善計画）>

- 学部のポリシー及びカリキュラムの学生への周知と理解を進める取り組み。ガイダンスや「初年次セミナー」「文学部の学びとライフデザイン」「ピア・サポート実践Ⅰ」等の授業で、学部での学びの意義や教育目的を確認しあう時間を設け、教職員と学生がともに「主体的な学び」の中で、「自律的学習者」として成長していける環境づくりを進めていく。
- 教員及び「ピア・サポート実践Ⅰ・Ⅱ」を受講した学生の支援による「つながり」の構築や心理的エンパワーメントの推進が行えるような体制を整える。

学生の意見聴取

【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

2024年度の自己点検・評価報告において、短期、長期それぞれの改善計画として、以下の事柄を挙げた。

<短期計画（アセスメント実施後1～2年の期間で実現可能な改善策）>

- ・学部協議会のさらなる充実を図り、学生の状況や意見を聴きながら、学部の取り組みの改善と充実につなげていく。
- ・本学の建学の精神、文学部の三指針、ディプロマ・ポリシー、ラーニング・アウトカムズについて、「初年次セミナー」等の授業や履修相談会等を通して、学生の認識と理解を広げ深めていく。
- ・学生アンケート調査の結果、様々な分野を幅広く学べることを、文学部に満足している理由として挙げる学生が多い一方、開講科目数や学生数の多さから、学生同士の交流が希薄であるとの声もあることから、学生同士が学びや学生生活について話し合い、文学部生としての連帯を築き深めていけるような内容を「初年次セミナー」等の授業で充実させ、授業外でも学生交流の場を増やしていく取り組みを行う。

<中長期計画（アセスメント実施後3～5年の期間で取り組む改善計画）>

- ・2026年度開始の新カリキュラム運営の状況に合わせ、学部協議会での討議、授業アンケートや、文学部学生アンケート等から見えてくる学生の状況や意見を踏まえ、教員間で情報共有及び協議をし、具体的な対応を検討し実現していく。

2025年度は、学部協議会の一層の充実を図りつつ、学生の意見を幅広く取り入れる機会として位置づける。学部長・副学部長が、学生自治会の文学部執行委員長をはじめとする執行部メンバーと懇談を行い、学生自治会の活動計画を共有するとともに、学生からの要望を把握し、学部の年間計画を策定した上で、学生と協働して取り組んでいく。そのうえで、上記の短期・中長期計画の実行を目指していく。

【2】今年度の取組みに関する点検・評価

学部協議会での学生からの意見・要望に基づく年間計画に従い、学生自治会の協力を得て、学部の履修相談会、各ゼミの現役ゼミ生が参加するゼミ相談会等を開催した。これらの学生との協働により、学部のディプロマ・ポリシーおよびラーニング・アウトカムズや、ゼミでの学びへの学生の意識向上を促進することができたと考える。

文学部は、学びの分野が豊富であると同時に、科目も多岐にわたるため、これまで学生から履修科目選択が難しいとの声もあった。今年度は、履修のための動画作成により、履修モデルを含む履修、授業、ラーニング・アウトカムズに関する内容を分かりやすく説明した。その結果、教務課からは、文学部生からの履修問い合わせが減少したとの報告を得ている。このことから、学部における履修サポートに一定の効果が認められる。

文学部では、大学として原則対面授業を前提とする方針のもと、コロナ禍以後も一部の科目においてオンライン授業を実施しており、これは本学で取り組んでいるDX化の推進にも資するものである。学生の授業アンケートからは、授業形態に応じてオンライン授業を併用することで、学習効果が高まっていることが分かる。特に、大教室での授業では質問しづらい場合がある一方、オンライン授業ではチャット機能を用いてすぐに疑問点を確認でき、授業内容について理解を深めやすいという意見も多い。また、映像と講義を組み合わせた授業では、対面授業の理解を補完・深化させる効果が認められる

昨年度の学生アンケート調査の結果、文学部は開講科目数や学生数が多いため、学生同士の交流を十分持つことができないとの声があった。このことへの対応の一つとして、2023年度から実施している年度初めの初年次交流会の内容をさらに充実させた。学生生活全般についてのトピックも含めた自己・他己紹介等のペア・グループワークにより、有意義な学生交流を行うことができた。これらの取り組みは、上記「学生の意見聴取」【1】の改善策の短期・中長期計画の実現に相当するものと言えよう。

【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画

<短期計画（アセスメント実施後1～2年の期間で実現可能な改善策）>

・本学の建学の精神や文学部の三指針、ディプロマ・ポリシー、ラーニング・アウトカムズについて、履修相談会や「初年次セミナー」等の授業の機会を活用し、学生の理解と認識を一層広げ、深めていく。

<中長期計画（アセスメント実施後3～5年の期間で取り組む改善計画）>

・2026年度に開始する新カリキュラムの運営状況を踏まえ、学部協議会での討議に加え、授業アンケートや文学部学生アンケート等から把握される学生の実態や意見をもとに、教員間で情報共有と協議を行い、対応策を検討・実施していく。